

周辺のまちづくりと連携した治水事業の推進 ～水辺から地域活性化～

品治 幸¹・田熊 英子²・千野 貴彦³

^{1,2,3}中国地方整備局 岡山河川事務所 調査設計課 (〒700-0914 岡山県岡山市北区鹿田町2丁目4番36号)

岡山城・岡山後楽園周辺の旭川は、都市に居ながらにして歴史・文化・自然を感じることの出来る水辺空間でありイベント時には多くの人々が訪れ賑わうが、日常的な市民利用が少ないという課題がある。岡山河川事務所では、河川整備計画に位置づけられている整備区間において、水辺の回遊性向上と水辺の魅力を活かした賑わいの拠点創出を図る堤防護岸整備等のハード施策とミズベリング等市民参画を促すソフト施策により、岡山城・岡山後楽園周辺の旭川を中心とした賑わいの拠点づくりに取り組んでいる。

キーワード ミズベリング, まちづくり, 市民参画

1. 背景

旭川は、岡山県の中央部に位置し、その源を真庭市蒜山(ひるぜん)の朝鍋鷲ヶ山(あさなべわしがせん)に発し、途中、百間川を分派した後、岡山市の中心部を流れ児島湾に注ぐ一級河川である。

鳥城(うじょう)で知られる岡山城とその城下町は江戸時代に旭川に沿って形成され、現在に至るまで、この地域の社会・経済・文化の基盤を形成している。

岡山城から旭川を挟んで日本三名園「岡山後楽園」が位置している。岡山城・岡山後楽園周辺の旭川は、岡山駅から東に1kmに位置しており、都市に居ながらにして歴史・文化・自然を感じることができる水辺空間である。



図-1 岡山城・岡山後楽園周辺の旭川

(1) 現状

岡山城・岡山後楽園周辺の旭川において、旭川の低水路を活用した「カヌー駅伝大会」や「旭川遠泳」が毎年開催され、市民による河川利用がなされている。

また、岡山後楽園の東側に約1.3kmに連なって旭川の堤防に植えられたソメイヨシノ並木は「旭川さくらみち」の愛称で親しまれており、3月下旬から4月上旬にかけて開催される「岡山さくらカーニバル」には毎年10万人前後の市民が訪れ、賑わいをみせる。岡山城から下流に約1.3kmの西中島地先の河原では毎年8月上旬におかやま桃太郎まつり納涼花火大会が開催され、毎年20万人前後の観客で賑わう。



図-2 カヌー駅伝の様子

2. 現状と課題



図-3 岡山さくらカーニバルの様子

さらに、近年、岡山城では「鳥城灯源郷」、岡山後楽園では「幻想庭園」と銘打ったライトアップイベントを共同して開催しており、岡山城・岡山後楽園の入場者数は増加傾向にある。

また、岡山城から約0.5km下流の河川敷では、約100軒の出展テントがたつ「京橋朝市」が市民の手によって開かれており、毎月一度の恒例行事となっている。岡山城から上流約0.2kmに位置する石山公園は旭川に面した岡山市管理の公園施設であり、マルシェ、ヨガ、アート展示等の週末のイベントに頻繁に利用され、賑わっている。

(2) 課題

イベント時には多くの人々が訪れ賑わう岡山城・岡山後楽園周辺の旭川だが、中心市街地から近いにも関わらず日常的な利用者が少ないという現状がある。特に河川管理区間に目を向けると、低水護岸にアクセスするにはスロープ一箇所と急な階段が設置されているだけで、水辺へのアクセスが不便な堤防構造だ。また、捨て石の低水護岸となっている通称「水辺の回廊」は一部間詰めが施されているものの、凸凹であり必ずしも快適な歩行空間が整備されているとはいえず、水辺の活用を促そうといえども、水辺の回遊性が低いという課題がある。



図-4 急な階段



図-5 水辺の回廊の様子

3. 課題に対する解決策

(1) 岡山市と協働した施策の発表

旭川周辺の堤防は河川整備計画の改修事業の対象区間に位置づけられている。歴史・文化・自然が感じられ、岡山市を代表する場所であることから、広く市民や有識者の意見を取り入れた整備が求められる。

一方、岡山市は「笑顔あふれる中心市街地の創出」を目指して中心市街地活性化に取り組んでおり、岡山中心市街地全体へ人の流れを生み出す「回遊性の向上と賑わいづくり」をキーワードに整備を進めている。そこで、岡山城・岡山後楽園周辺の旭川を中心とした賑わいの拠点づくりに向けて、岡山河川事務所と岡山市が連携してハード・ソフト施策に取り組むことを「集う・憩う・楽しむ水辺一旭川再生！」と銘打ち2014年11月13日に共同で記者発表した。



図-6 「集う・憩う・楽しむ水辺一旭川再生！」の取組内容

岡山河川事務所が取組むハード施策として、旭川右岸では、無堤区間の堤防護岸整備と合わせ水際にアクセスするスロープを設置し、捨石の低水護岸である水辺の回廊については歩行性向上のための改良整備を行う。そして旭川左岸では、老朽化した桜を植え替え可能にするための旭川さくらみちの堤防護岸整備と合わせてスロープを設置する。これらの取組により、水辺の回遊性の向上と水辺の魅力を活かした賑わいの拠点創出を図るという内容である。



図-7 旭川右岸の出石区の整備イメージ

これに加えて、岡山市の取組みとして、利用しやすい空間づくりを目的とした石山公園のリニューアル、水辺の見えるオープンカフェの常設を目指すこと等がある。

また、岡山河川事務所と岡山市協働の取組みとして、河川や石山公園を活用した定期的なイベントの開催も盛り込まれた。

(2) 戦略会議の発足

「集う・憩う・楽しむ水辺—旭川再生！」の具体化に向け、2015年5月28日、地域の経済界や大学、関係行政機関が共同で、旭川の水辺の活用や岡山後楽園、岡山城周辺を中心としたまちづくり、それらと連携した旭川全体にわたる川づくり等について意見交換を行い、今後の河川整備やまちづくりに資する旭川の水辺再生戦略を検討するため、「岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議」（略称：旭川水辺再生戦略会議）を発足した。メンバーは、岡山市長、岡山商工会議所会頭、岡山大学副学長、岡山県土木部長、岡山河川事務所事務所長の5名である。

初回の会議では、岡山城・後楽園周辺の旭川の現状と課題が報告され、共同発表による取組を進めるだけでなく、河川や石山公園を活用したイベントの開催時に実際に旭川の水辺を活用した上での意見やアイデアを市民より聴取し、今後のハード・ソフト施策に活かすことで、安全・安心な市民の憩い空間、岡山後楽園・岡山城と一体となった魅力ある空間としての旭川再生を目指す方針が決定した。

(3) 市民参画のための取組

「ミズベリング・プロジェクト」はかつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性の創造を目的として全国で展開している。プロジェクトの一環として、市民や企業、行政等の肩書き関係なく自由に水辺について考える「ミズベリング会議」が全国各地で開催されている。まずは旭川に関心を持ってもらい、親しんでもらい、そして岡山城・岡山後楽園周辺の旭川を中心とした賑わいの拠点づくりについて考えることを目的に、2015年10月31日に「ミズベリング岡山旭川」を開催した。

主催として「ミズベリング岡山旭川実行委員会」を立ち上げた。旭川水辺再生戦略会議構成機関（岡山市、岡山県、岡山河川事務所、岡山商工会議所、岡山大学）に加え、旭川を活用したカヌー駅伝を主催されている岡山カヌークラブ、石山公園周辺を活用したイベントを多数主催されているNPO法人ENNOVAOKAYAMA等で構成し、河川や公園等の整備・管理を担う行政機関だけでなく、利活用する立場の団体、民間企業等の意見を取り入れながら運営できる体制とした。

まずは、旭川に関心を持って頂き、水辺を活用して楽しんで頂くために、岡山城を眺めながらのカヌー体験と石山公園での「パークマーケット」を開催し、1,000人を超える多くの市民にご参加いただいた。



図-8 カヌー体験の様子



図-9 パークマーケットの様子

また、旭川の魅力を再発見し、水辺の活用の可能性に

について考えて頂くため、ワークショップに先立って旭川周辺のチェックポイントを巡りながら散策する「旭川かわまちウォーク」を岡山商工会議所、岡山市と共同で開催した。



図-10 かわまちウォークの様子

ワークショップは、近隣大学の留学生含む学生や岡山城・岡山後楽園周辺の旭川を中心とした賑わいの拠点づくりについて興味を持つ岡山市内在住の方を中心に約60名にご参加いただいた。ブレインストーミング形式で実施し、約250のアイデアを頂いた。



図-11 ワークショップの様子

アイデアは、堤防整備等のハード施策に関するものと、イベント開催により日常のにぎわいを創出するソフト施策の2つに分けられる。

ハード施策に関連したアイデアは、大きく分類すると、ベンチや木陰のある場所の増設、カフェ等の休憩場所の設置、階段・スロープの設置、水辺の回廊の歩行性改善、わかりやすい案内看板の設置であった。

ソフト施策に関連したアイデアは、水辺でのイベントの開催が多く、近隣の図書館や美術館と共同での本やアートイベントや、レジャーシートだけでできるお昼寝サミット、大人の告白イベント、ナイトマーケットやジギスカン大会等、水辺を活用した大胆でユニークなものであった。

美しい景観の保全と活用

- 旭川の写真展/カメラ撮影イベント
- 堤防整備の工夫(見晴らしの良い空間/古い街並への配慮)

回遊性の向上

- ベンチ・休憩所の増設
- 水際の歩行性の向上
- 緩やかなスロープ・階段の整備
- 散策・ランニングコースの設定
- 駐車場の設置

日常のにぎわい創出

- 旭川に桃の形のパルーンを浮かべる
- 天の川プロジェクト(LEDの光る球体を水面に浮かべる)
- 晴れの国イベント(年間を通して様々なイベントを開催する)
- 音楽イベント
- オープンカフェ/BAR
- カヌー/SUP/手こぎボート体験
- 屋根船/船上レストラン
- ももちゃり(レンタルサイクル)のポート版

継続的な情報の発信

- ミズベリング岡山旭川の継続的な開催

図-12 ワークショップで出されたアイデアの例

(4) 事前・事後の多様な広報

旭川の水辺について幅広い層の市民に関心を持ってもらうため、実行委員会のメンバーと協働でイベント実施前と実施後に多様な広報を実施した。

イベント開催前は、チラシ、ポスター、広報誌(市、商工会議所)、ホームページ団体、おかやまシティFMレディモモ、報道機関への投げ込み、専用WEBページの設置により、実行委員会に所属している各団体による広報を行った。



集う・憩う・楽しむ水辺へ!!

「ミズベリング岡山旭川」は、市民や岡山を訪れる皆さんにかわまちウォーク・カヌー体験や旭川沿いのオープンカフェ・パークマーケットなどをおして、岡山城・岡山後楽園周辺の旭川に親しんでいただくための取り組みです。また、岡内山下小学校では、「旭川」と「岡山城・岡山後楽園周辺」がテーマのまちづくりについて考えるワークショップを開催いたします。皆さんで旭川周辺を魅力ある空間にするためのアイデアを考えましょう!

図-13 ミズベリング岡山旭川の専用WEBページ

イベント実施後には、岡山市広報誌(28万部発行)の表紙として掲載、岡山商工会議所の会報(6,292社)の特集記事、専用WEBページでの実施報告の掲載を行った。

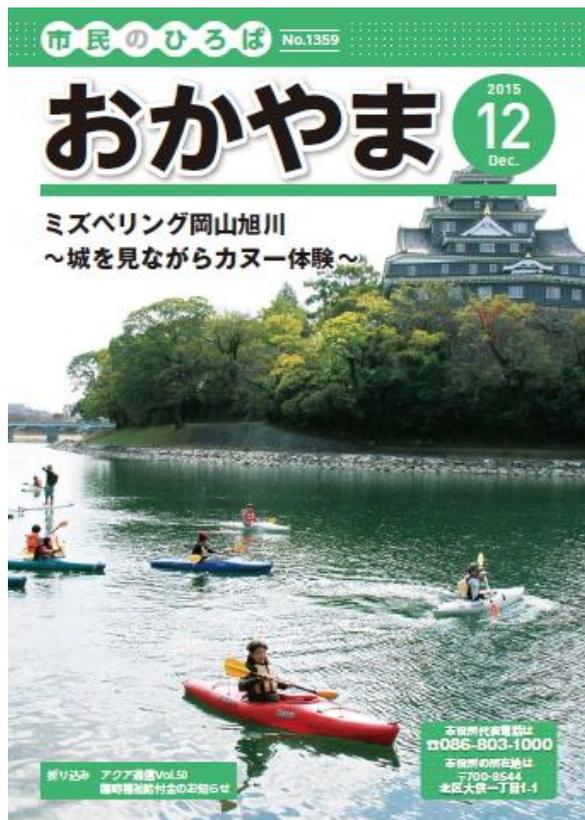


図-14 岡山市の広報誌の表紙¹⁾

4. 取組後の評価

水辺の回遊性に寄与する堤防整備、緩やかなスロープ・階段の設置、水辺カフェの増設等、「集う・憩う・楽しむ水辺ー旭川再生！」の取組内容が市民の方々に求められていることが確認された。今回いただいた率直なご意見を参考にしながら、引き続き、周辺の景観や、水辺の回遊性向上を目指した堤防整備を進めていきたい。

一方で、日常的な賑わいの創出のためのイベントに関するアイデアを多数頂き、市民の方々が旭川に抱く期待が感じられた。

また、「ミズベリング岡山旭川」の当日はカヌー体験やパークマーケットにより旭川の水辺は賑わったが、実行委員会が手を動かし、支援を行っての実施であった。岡山城・岡山後楽園周辺の旭川の水辺において、今後ますます賑わいを創出するためには、市民団体や民間企業等が主体となり、行政が後方支援を行う体制が必要と考えられる。

5. 今後の課題とその改善方策

(1) ハード施策について

2016年1月20日に開催された第2回旭川水辺再生戦略会議では、今後もミズベリング等のにぎわい創出イベントを継続するとともに、各機関が連携・協働して、岡山城・岡山後楽園周辺のにぎわいの拠点づくりに取り組むことを「旭川水辺再生戦略」と位置付け、概ね2019年度までに集中的に取り組む方針が取り決められた。

具体的な取組として、旭川さくらみちでは、2014年から工事着手しており、2017年度完成を目前に、全区間での桜の保全・植え替えが可能となる堤防護岸整備や歩道整備を実施していく。旭川右岸の無堤区間である出石地区については周辺の環境に配慮した堤防護岸とし、概ね2018年度の完成を目指す。水辺の回廊については、歩行性向上のための改良整備による回遊性の向上と親水性の向上を目指し、具体的整備に向けて検討会を立ち上げ議論していく予定であり、2016年度以降の旭川かわまちづくり計画に位置づける予定である。

(2) ソフト施策について

ミズベリング岡山旭川のワークショップでは、水辺を活用したユニークなイベントが多く提案され、旭川に抱く市民の期待が感じられた。また、岡山市協働のまちづくり条例が改正され、市民協働の気風が高まっているという背景もあり、「水辺で何かやってみたい」と思っている地域の方々が実際に「試す」イベントとして、2016年10月に「ミズベリング岡山旭川2016」を開催することにした。2015年に開催した第1回と同様に石山公園を中心とした実行員会主体の企画を行うだけでなく、企業、団体、個人問わず市民に広くイベントを公募し、同日に実施する。市民に公募するイベントは、企画、準備、実施に至るまで応募者が実施することとしている。

このねらいは、イベントを企画した方、イベントに参加した方、事前・事後の広報により知った方等が旭川に関心を持ち、水辺の活用についてイメージを持ち、将来的に活用の主体となることである。また、応募イベントの審査は、河川法等に照らすことや実現性だけでなく、新規性の観点からも行う。

新しい試みを実際に試すことにより、得られる意見やアイデアが、今後のハード・ソフト施策の参考となり、岡山城・岡山後楽園周辺の旭川を中心とした賑わいの拠点づくりに寄与することを期待している。

参考文献

- 1) 岡山市：「市民のひろばおかやま」2015年12月号